



すずらん群生地 — 文化的景観解説サインの紹介 5 —

芽生地区に約 15ha の広がりをもつすずらん群生地があります。このあたりは、戦前は軍馬を生産する牧場として利用されていました。放牧されていた馬が、有毒植物であるすずらんを避け、他の草本を食べたことにより、結果としてすずらんの群生が促されてきました。自然と人の営為により出来上がった文化的景観です。すずらんは昭和 54（1979）年に



群生地入口の左手にあるサイン

町花となり、すずらん群生地は平成 8（1996）年に町の天然記念物、そして平成 19（2007）年に国の重要文化的景観となりました。現在は、放牧された馬の代わりに人が草刈り等を行い、群生地としての保全が図られています。

（山本 雄）



☎811 348 552 42（駐車場）



博物館受付に飾られたすずらん。来館者に好評でした。

沙流川流域の野鳥たち No.7

フクロウ目フクロウ科

観察難易度：★★★★

シマフクロウ

学名：*Ketupa blakistoni* 漢字名：^{しまふくろう}島梟

英語名：Blakiston's Fish Owl

アイヌ語名：コタンコロカムイ

【kotankor kamuy】

- 大きさ** 全長 おおよそ 180cm
- 鳴き声** 夜間 雄：ボーボー 雌：ボーオッ
- 特徴** 雄雌同色。日本産フクロウ類中、最大の種。
成鳥はほぼ全体が灰色みを帯びた褐色で、黒褐色の斑点が密にある。虹彩は黄色。
足指に羽毛は生えない。羽角は長めで幅が広い。
つがいは、喉を膨らませて鳴き交わす。
- 生息環境** 平地から山地の河川、湖沼、湿原沿いの森林。
- 分布** 日本では北海道のみに生息。かつては全道的に生息していたが、現在は大雪山系～日高山脈及び道東地域に生息。
- 保護状況** 国 RDB 絶滅危惧 IA 類、天然記念物、国内希少種、北海道 RDB 絶滅危惧種
- 行動** ミズナラやカツラなど広葉樹の大木の樹洞で営巣。魚類、カエル、水生生物、ネズミ類、昆虫、コウモリ、エゾモモンガ、時にカモ類も捕食。
1 月下旬に繁殖し、4 月頃に卵が孵化する。巣立ちまでは約 2 ヶ月。巣立ち後は親鳥の給餌を受けて育ち、その後も親といることが多い。



狩りをしているシマフクロウ



つがい

写真：『北海道野鳥図鑑 /2003』より掲載

シマフクロウの「シマ」は北海道という島に生息していることに由来しています。しましま模様ではありません。

～アイヌ文化におけるコタンコロカムイ～

シマフクロウはイオマンテ（神送り）の対象とされており、昭和 41 年（1908）までは重要な祭儀として各地で行われていました。天界に送った後は、礼節として 1 年間はクマ狩りを控えていました。その後の送り儀礼としては、昭和 58 年（1983）に弟子屈町屈斜路のコタンで復活していますが、シマフクロウが国の天然記念物に指定されていたため、実際に天界へ送ることはせずに伝承による忠実な手順方法が再現されました。「第 5 回 週刊 日本の天然記念物 動物編」より

沙流川流域では、医師である木村謙次著の『蝦夷日記』によると、寛政 10（1798）年 11 月にピラカコタン（現：日高町福満）でシマフクロウ（「^{ヤモイデカッフ} 鵂 蝦夷名島梟」と記載）他を対象としたイオマンテを行っていたという記録が残されています。（世良昌也）

沙流川歴史館企画展終了のお知らせ

4月25日（火）から5月28日（日）まで沙流川歴史館企画展『ポロシリ登山の魅力』が開催されました。

企画展では、登山の様子が見える YouTube の上映や、幌尻岳の歴史や登山者の安全を守る平取町山岳会の皆さんの取り組み、アイヌの信仰の対象であったポロシリの伝承や、幌尻岳の縮小ジオラマ、幌尻岳の美しい景観写真などを展示しました。展示にご協力して下さった方々に感謝いたします。

（佐々木知代）

※アンケートの一部をご紹介します※

- ・展示内容がとても詳細で行きたくなりました。写真がとてもきれいです。（登別市）
- ・20年以上前に登りましたが、写真を見て以前より大変な様子が見えました。でもなつかしかったです。（札幌市）
- ・山荘までしか行ったことがないですが、幌尻岳は平取町の財産だと思います。山岳会の皆様お疲れ様です。（町内）
- ・いつか行ってみたい憧れの山です。整備やボランティアの方には頭が下がる思いです。写真も素敵でした。（芽室町）



展示会場



見学の様子

【幌尻岳】登山して水力発電のメンテナンスへ行く！
無事辿り着けるのか…



登山して
幌尻岳
水力発電メンテナンス

展示会場で上映した
YouTube 動画です！



設備屋
町の設備屋さん



看板



ジオラマ

沙流川歴史館特別展開催のご案内

『二風谷の銘石とアオトラ石』

10月3日（火）から12月3日（日）の日程で、令和5年度沙流川歴史館特別展を開催致します。今年度は二風谷の銘石の歴史と、その主要な石材であるアオトラ石にスポットを当て、地域の方がいただく沙流川流域の石への思いをまとめ展示します。

地域で加工・販売される銘石の魅力や、どのような形で地域に受け継がれてきたのかを振り返り、その今日的意義を画像やパネル、鑑賞石の展示を通して紹介いたします。ぜひ見学に来てください。



アオトラの鑑賞石

アイヌ政策推進交付金事業⑧

アイヌ政策推進交付金とは、アイヌ文化の振興や福祉施策に加え、地域振興、産業振興、観光振興等を含めた市町村のアイヌ施策を支援する交付金制度です。令和5年度の交付金事業として、文化財課では次の5つの事業を実施します。(1) 二風谷アイヌ文化博物館普及啓発事業 (2) 屋外展示施設改修事業 (3) 平取アイヌ文化保存会・平取町二風谷アイヌ語教室の振興事業 (4) アイヌ工芸体験交流事業 (5) イギリスのジャパンハウス派遣事業。これらの事業を実施しながら、アイヌ文化の理解促進をはかり、文化振興と地域振興に寄与できるよう取り組みます。今後も、シシリムカ文化財だよりなどで事業の内容を紹介していきます。(山本 雄)



(1) アイヌ文化博物館普及啓発事業
博物館における特別展の開催 (写真はR4)



(4) アイヌ工芸体験交流事業
木彫コースターの制作体験 (写真はR4)

イギリスのジャパンハウス派遣事業②

令和5年11月から開催を予定しているジャパンハウスロンドン (以下JHL) の企画展に向けて、令和5年1月から2月にかけて、地域のアイヌ文化継承団体の代表者と共に、イギリスへの現地視察と打合せを実施しました。その際に、飛騨高山の木工をテーマにした企画展「The Carpenter's Line」を見学することができました。企画展のテーマがアイヌ文化となるため、この展示を見たことは、木の文化を展示するためのイメージづくりにとても役立ちました。その後、JHLの担当者に関連イベントの実施場所を確認しながら、展示やイベント内容の擦り合わせなど、活発な意見交換を行いました。また、大英博物館に所蔵されている1910年の日英博覧会関係のアイヌ民具資料も見ることができました。慌ただしくも充実した視察となり、現在は11月の本番に向けて準備を進めています。(山本 雄)



JHLでの打合せの様子

平取町とイギリスの関わり②

1910年日英博覧会がロンドンで開催されました。この博覧会には、門別から1名、平取から2名、二風谷から7名のアイヌが参加しています。会期中(5月～10月)、二風谷から船で運んだチセの中で生活をしながら色々な工芸品を制作し、博覧会に訪れる人の対応をして過ごしていたようです。このときに作られた民具は、大英博物館をはじめイギリスのいくつかの博物館に所蔵されています。100年以上前に作られたもので、とても貴重な資料となっています。

アイヌ語を覚えてみよう ①9

イランカラプテ！（こんにちは！）

今回はアイヌ語の間投詞（驚き、喜び、悲しみなどの感情を直接表現する単語）をいくつか辞書の用例と共に紹介します。

- ・【アチカラタ】 わあっ、なにごとだ（びっくりした時に出る叫び）
アチカラタ アチカラタ マカナケタ！ なんだなんだ何事だ！



- ・【ケ】 えっ、あれっ（意外なことを知って驚いた気持ちの軽い表現）
ケ ケ ケ ケ ホクレ ホクレ！ あらあらあらあら さあ早く早く
（ちらかっている所へ突然お客が来てびっくりしてあわてて）



- ・【オハイネ】 なるほど、ああそうだね（納得したこと、合点がいったことの表現）
オハイネ オハイネ なるほどなるほど



- ・【パラセコロ】 いい気持ちだ、ざまあみやがれ

エネ リク タ リク タ インカラ コロ アナプ(アン アプ) ア・コソドイエ ハウエ。

パラセコロ あれほど威張っていた者、ある物全部取られたという。ざまあみやがれ

- ・【イネ】 だら

イネ、エタプストゥ クテンパテンパ ナ だら、肩をもんであげるから



- ・【ヘタク】 さあ、そら（うながす言葉）



- ・【イヨハイ】 おやおや、おやまあ

ナ エホッケ ワ エアン ルウェ？ イヨハイ、ヘタク ホプニ！

まだ寝ているの？ まああきれた、さあ起きなさい



（アイヌ語沙流方言辞典、萱野茂のアイヌ語辞典 より引用）

どうでしたか。聞いたことがあるものがありましたか？

これらの言葉にピッタリの状況になったら是非使ってみてください。

ヤクン パクノ ネ。スイ ウヌカラン ロー！（それではここまでです。またお会いしましょう！）

（生涯学習課 関根健司）

平取町文化財の新規指定について

令和5年（2023）4月25日付けで、平取町文化財4件の新規指定が告示されました。内訳は有形文化財2件、無形民俗文化財2件の計4件となります。

有形文化財は昭和四十年代のアイヌ文化振興の流れをくむ優れた工芸を評価基準としています。貝澤かつえ氏作のアットウシアミプ（樹皮衣）1着と故貝澤守幸氏作のイタ（盆）1枚で、いずれも後世に残すべきアイヌ工芸の特徴や技巧、来歴を表す作品として指定するものです。アットウシアミプは昭和四十年代に二風谷のハヨピラ民芸で購入した作品で、平成二十五年に長野県にお住まいの持ち主から地元に戻したいという意向で寄付されました。材質は当時多く用いられていたシナノキの樹皮となります。イタは二風谷の故貝澤守幸さんが昭和四十五年に制作した作品です。横幅82.5cmもある大型のイタで、こうしたダイナミックな彫刻作品が貝澤守幸さんの作風です。彫刻デザインは緩やかに曲がる渦巻きが中央に据えられて、とげの文様とウロコ彫りで彩られます。

無形民俗文化財「アットウシの制作技術」と「イタの制作技術」は、平取町の主要なアイヌ民具の手わざを正しく継承するための保護施策として指定するもので、二風谷民芸組合を保持者として認定します。アットウシは日本史で言う江戸時代後半から、一貫して同じ方法で作られ続けてきたことが分かっています。そうした中、二風谷は、北海道の中で唯一アットウシづくりが途切れることなく伝えられる地域でもあります。イタはアットウシと同様、アイヌの生活用具である一方で幕末以降、工芸的な価値が高まっていった道具です。近世から現代に移り変わる中であっても、イタの素材（イタヤ、クルミ、カツラ等）やアイヌ文様のデザイン感覚が地域に受け継がれ



写真1：有形文化財
アットウシアミプ（樹皮衣）



写真3：無形民俗文化財
アットウシの制作技術



写真2：有形文化財 イタ（盆）



写真4：無形民俗文化財 イタの制作技術

ています。明治時代以降も沙流川流域の優れた工芸師による作品が数多く残されています。

今後、令和になって初となる平取町文化財の指定を通して、生活の中で育まれた文化的所産を継承していくための価値付けを更に図っていきたいと考えています。

（長田佳宏）

開拓財産 ～むかしのどうぐ～

【アイヌ民族と近代開拓】

テーマ1：学校(3)

長万部出身の江賀寅三（1894-1968）はアイヌ民族の地位向上を目指して教員となり、大正6（1917）年に平取尋常小学校^注に着任しました。同校舎内には和人児童が通う第一平取尋常小学校が所在し、一つの建物の中でアイヌと和人児童を分けて教育していました。この教育方法に反対した江賀と、校長の藤原兼蔵の尽力により大正8（1919）年に混合教育が実現されました。江賀は混合教育が行われる前年の大正7年まで同校で勤務しましたが、「教育で人は救えない」という思いから大正10（1921）年に教師を引退しました。その後、キリスト教の教職者を志し、大正11年の1月から秋まで聖公会平取教会の副牧師を務めました。晩年は牧師として静内新生教会（現静内新生キリスト教会）の設立に携わりました。

（廣岡絵美）



平取町立平取小学校(旧平取尋常小学校)の前に立つ江賀寅三。昭和36(1961)年撮影。写真提供：江賀一夫氏

（注）明治13(1880)年に設立された佐瑠太学校平取分校。同28(1895)年に尋常小学校となり、同34(1901)年に国立旧土人学校（北海道旧土人保護法第9条によって設立された学校）に移管された。

平取町開拓財産展示施設(平取町字荷負77-3) 見学のご案内

【開館日時】＊変更の場合あり

5～11月の月・水・金曜日(祝日休館) 8:45～12:45

上記以外の日程のご見学についてはお問合せ下さい。

【ご予約・お問合せ】

平取町立二風谷アイヌ文化博物館 ☎01457-2-2892

または 沙流川歴史館 ☎01457-2-4085

平取町立二風谷アイヌ文化博物館 第29回特別展

N. G. マンローがみた二風谷

ースコットランド人医師とコタンの人々(仮称)

ニール・ゴードン・マンロー（1863-1942）は明治24（1891）年に来日しました。昭和6（1931）年に平取村二風谷に移住し、アイヌ文化研究に励むと同時に地域住民を無料で診察しました。同氏の功績を記念し、平成15（2003）年以来毎年6月に「マンロー先生を偲ぶ会」が開催され、町内外の有志が旧マンロー邸に集っています。今年の平取町立二風谷アイヌ文化博物館の特別展（10月3日～12月3日開催）では、氏の平取における活動を中心にパネルや映像資料をご紹介します。

マンローに対する地域の人たちの想いを展示に反映するために展示検討委員会を発足し、5～9月までの期間に、月に一度会議を行っております。

（廣岡絵美）



マンローの肖像写真
(当館所蔵)



第1回展示検討委員会の様子(5月31日開催)

平取町立二風谷アイヌ文化博物館

■博物館特別展

「N. G. マンローが見た二風谷 - スコット
ランド人医師とコタンの人びと -」（仮称）
期間：10月3日（火）～12月3日（日）
場所：二風谷アイヌ文化博物館伝承サロン

■特別展関連講座（N. G. マンロー関連）

期日：10月15日（日） 午後
会場：沙流川歴史館レクチャーホール
講師：内田順子氏
（国立歴史民俗博物館教授）
出村文理氏
（北海道史研究協議会会員・
北海道考古学会会員）

■アイヌ文化体験学習講座

「アイヌ文様を彫ってみよう」
期間：7月29日（土）～8月27日（日）
講師：二風谷民芸組合所属アイヌ工芸師
場所：二風谷工芸館

沙流川歴史館

■台湾史前文化博物館特別企画展

「台湾先住民族の文化と環境知識」
期 間：9月3日（日）～9月18日（月）
主 催：台湾史前文化博物館
場 所：沙流川歴史館エントランスホー
ル、企画展示室
休館日：毎週月曜日

■沙流川歴史館特別展

「二風谷の銘石産業とアオトラ」（仮称）
期 間：10月3日（火）～12月3日（日）
場 所：沙流川歴史館企画展示室

平取町

■第54回チプサンケ

期 日：8月19日（土）・20日（日）
問合先：観光商工課
TEL 01457-3-7703

2023年7月

日	月	火	水	木	金	土
25	26	27	28	29	30	1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

2023年8月

日	月	火	水	木	金	土
30	31	1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31	1	2

2023年9月

日	月	火	水	木	金	土
27	28	29	30	31	1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

2023年10月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31	1	2	3	4

● 歴史館 休館日 ■ 台湾史前博物館特別企画展 ■ 博物館・歴史館特別展

シンシムカ文化財だより No. 19

2023年7月21日発行

編集・発行／平取町教育委員会文化財課

平取町立二風谷アイヌ文化博物館

北海道沙流郡平取町字二風谷 55

TEL 01457-2-2892

FAX 01457-2-2828

E-mail nah@town.biratori.lg.jp

HP <http://www.town.biratori.hokkaido.jp/biratori/nibutani/>

アイヌ文化博物館
Facebook 更新中！



沙流川歴史館

北海道沙流郡平取町字二風谷 227-2

TEL 01457-2-4085

FAX 01457-2-4086

E-mail sar.muse@town.biratori.lg.jp

沙流川歴史館
Instagram 更新中！

